

報告

第39回日本リハビリテーション工学協会 車いす SIG 講習会 in 甲府

山梨県立あけぼの医療福祉センター 松田 歩美

1. はじめに

2014年1月12日～13日の2日間にわたり、山梨県立図書館を会場に「第39回日本リハビリテーション工学協会 車いす SIG 講習会 in 甲府」(図1)が開催された。筆者は2012年度に学校を卒業し、現在理学療法士として1年目を過ごしている。学生時代に車椅子について学んだ内容は少なく、臨床に出てみると知識不足から十分な評価も行えず、対応に苦慮する事等が多くある。今回「車椅子の基礎」(図2)という内容に惹かれ参加し、受講者の立場より報告する。



図1 講習会パンフレット

<1日目>

- ① 車椅子の成り立ち
- ② 車椅子と生活
- ③ 車椅子の基本構造(身体寸法計測と車椅子寸法)と車椅子クッション
- ④ 姿勢について考える
- ⑤ 移動について考える
- ⑥ その他(ランチョン車椅子・情報交換会)

<2日目>

- ① 移乗について考える
- ② 小児の車椅子適合の考え方と工夫
- ③ 高齢者・片まひ者の車椅子適合の考え方と工夫
- ④ 車椅子の記録の重要性と見える化

<両日>

- ・車椅子等の展示

図2 プログラム内容

2. 講習会内容

参加者は理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、教員、相談員、指導員、製造・営業、設計・デザイナー等の多職種が集まり、山梨県内の方が多く見られたが、岐阜県や千葉県等の他県からの参加者も多くいた。

講習会は、「車椅子の成り立ち」・「車椅子と生活」・「車椅子の基本構造(身体寸法計測と車椅子寸法)と車椅子クッション」の基礎から学んでいった。車椅子は昔、高貴な人や戦時中の怪我を負った患者を「運ぶ道具」として使われていた。しかし現代では、椅子の機能である姿勢保持、車の機能である移動、そして移乗の機能を加える事で、車椅

山梨県立あけぼの医療福祉センター
療法科 理学療法部門
〒407-0046 山梨県韮崎市旭町上条南割 3251-1

子は「自律（自立）移動できる道具」となっている。その車椅子の成り立ちの背景には、歴史の流れや、国々の文化が大きく関係している事が分かった。「車椅子と生活」では「人が自律（自立）移動できる事は、自律（自立）した生活を送る事に繋がっていく。」事を考えると、移動できる為に、車椅子上の姿勢を考えるだけでなく、ICF の概念に基づいた活動や参加、環境等の要素を整えていく事が重要であると学ぶ事ができた。専門職としてそれに関わる事は正しい知識、例えば、人と車椅子の寸法、姿勢の評価や整え方、車椅子自体の特徴や調節方法等を知り、その上で対象者の環境も視野に入れてこそ、快適な生活を提供できると感じた。それを明確に考える事ができたのは、「姿勢・移動・移乗について考える」の各項目を終えてからだ。「姿勢」はただ保持するだけでなく、安楽な姿勢を提供する事や、調整時に骨盤角度と脊柱の関係性や頭部の位置など考慮していく事が、体幹・上肢の動きや咀嚼・嚥下機能、呼吸機能等を改善させていく。本人にあった寸法での車椅子を提供しなければ、快適でない姿勢、日常生活動作に影響させてしまう姿勢で過ごす事になってしまい、二次障害にもつながってしまう。だからこそ、前半で聴講していた「車椅子の基本構造（身体寸法計測と車椅子寸法）と車椅子クッション」の項目で学んだ身体特性を考慮した車椅子の適合が重要であると感じる事ができた。「移動」は、両上肢駆動、下肢交互駆動や片手片脚駆動の動作方法の特徴を紹介してから、身体特性と車椅子機能・構造といった工学的観点より適合の考え方をわかりやすく説明してくれた。「移乗」では、立位移乗・座位移乗・全介助移乗を例に挙げ、それらの移乗に適した車椅子の設定や、介助者視線でのアプローチの仕方を学ぶ事ができた。「姿勢」「移動」「移乗」を通して、人・車椅子・環境の適合を十分把握しなければならぬと感じた。

「小児の車椅子適合と考え方の工夫」・「高齢者・片まひ者の車椅子適合の考え方と工夫」では、症例を提示し、姿勢や動作を含めた具体的な内容や環境設定の評価や考え方が中心となっていた。現在、私

が担当している方をイメージして受講する事で、より深く考える事ができ、実際に確認しようと思った事もあり、理解しやすかった。

日々評価していく中で、姿勢や動作は数値では表しにくく、再現する事が難しい。しかし「車椅子の記録の重要性と見える化」では、その数値で表せないものを、姿勢・駆動・移乗を例に挙げて説明されていた。すぐに実践できる撮影時の方法として、カメラ・車椅子の位置と方向を統一したり、カメラのアングルを固定させるために床にマーキングして撮影範囲を固定させたり等あらゆる「見える化」を学べた。

1日目のランチオン車椅子や、両日実施されていた車椅子等の展示会では、業者の方々に直接説明を受ける事ができた。普段見る機会はあるけれども、自身が乗った事がないものも多かった為、実際に車椅子の試乗や使用することでより良く身近にそれぞれの車椅子の特徴を体験する事ができた。また車椅子だけでなく、ベッド柵・歩行器・クッション等、日常を過ごす上で必要となる機器に触れられて、興味深かった。

講習会全体を通して感じた事は、講師・関係者の方々の熱意や思いだ。丁寧な説明、わかりやすい表現、知識・経験がなければできないような内容等の数々に、受講していた私は、「聴く」だけでなく「理解」する事ができた。「理解」したからこそ、もっと詳しく知っていきたいと感じた。

3. 終わりに

実務経験が浅い筆者でも、講師の方々のわかりやすい説明、動画や写真を用いた具体的な考え方などを学ぶ事が出来、興味深く、充実した2日間であった。学んだ事をしっかり職場に持ち帰り、対象の方の生活をよりよくする為に働きたいと感じた。

この場を借りて、講義して頂いた講師の方々、及び関係者の方々に厚く御礼申し上げます。

なお、今回は2014年8月に広島で開催予定である。